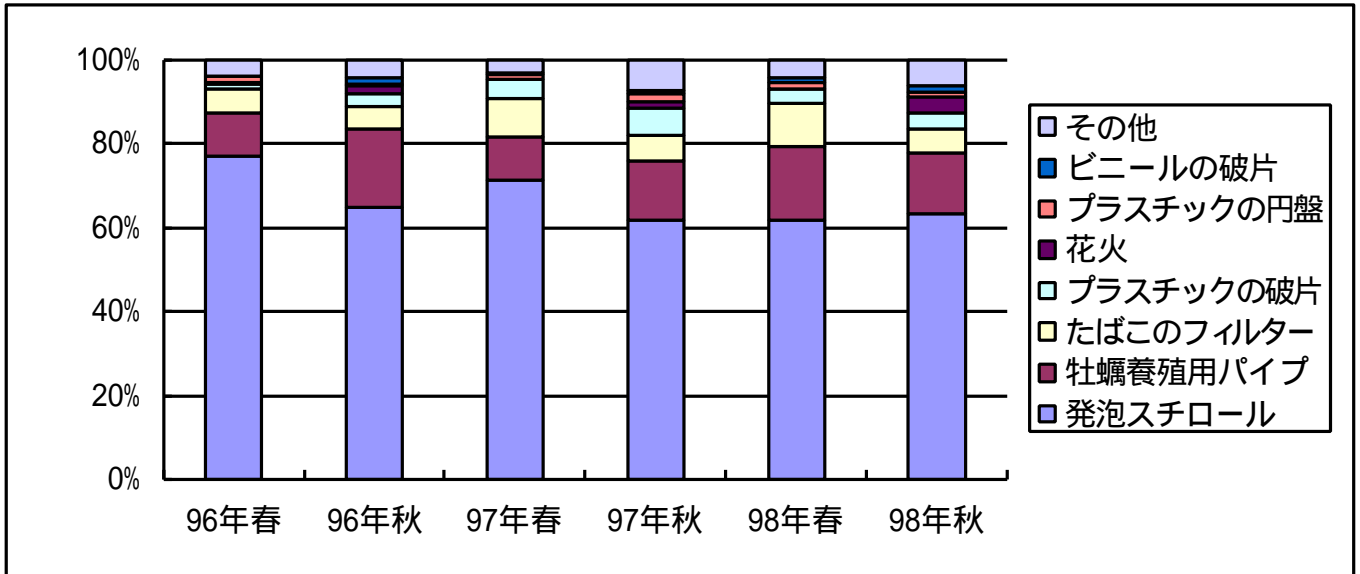


プラスチックの円盤とはカキ養殖の際に使用する 10円玉大のものである。(ワッシャーともいう)

98年度秋の調査では、レジパレットが41個採取された

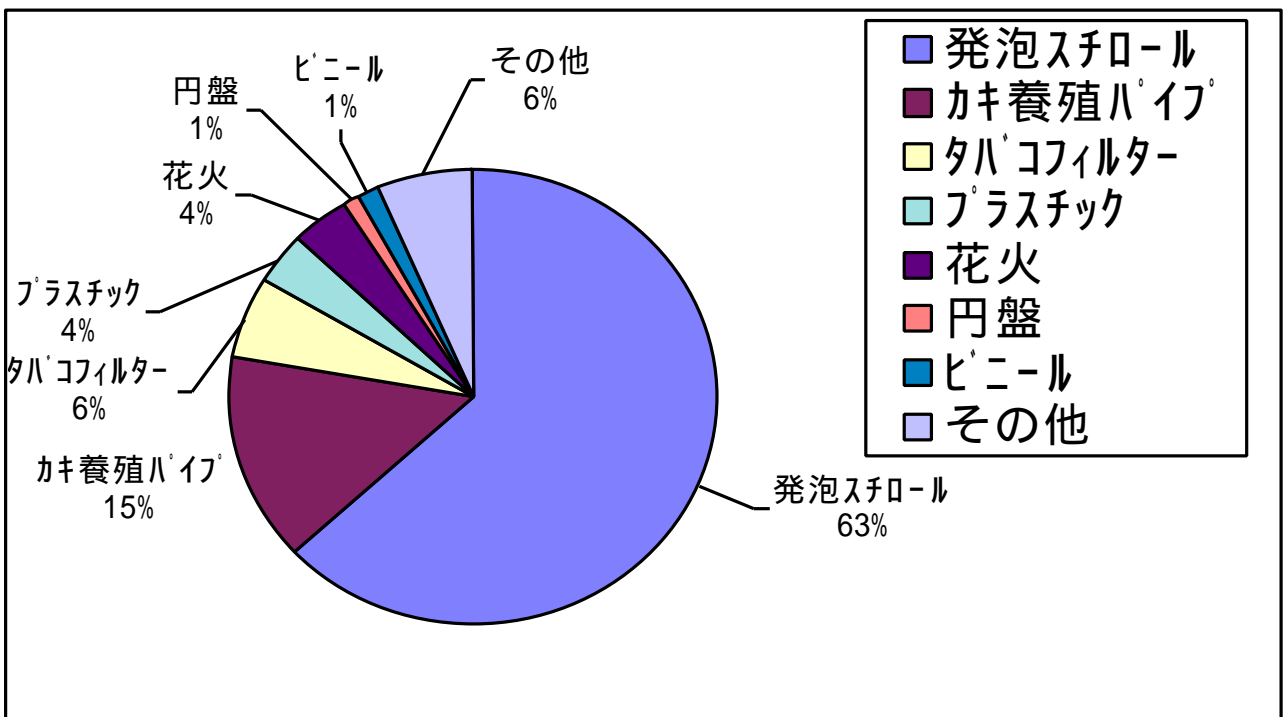
今回の特徴としては、花火の燃えかすなどの激増があげられる。前回に比べて、0.1%から4.0%へと、大幅な増加となった。この増加については、9月という時期が影響しているものと思われる。また、宮島の特徴である発泡スチロールの多さは、前回同様60%を下回ることではなく、微増であった。さらに、特徴的なことはタバコのフィルターの減少である。これをマナーの向上と判断できるものかどうかについては、今後の調査による。牡蠣養殖パイプはわずかに14.6%と減少したが、順位は2位のままであり、現時点では減少しつつあるとはいえないであろう。

今回の調査でも、発泡スチロール、牡蠣養殖パイプ、タバコのフィルターで、総ごみ数の83.5%に達しているが、この3種の占める割合は前回よりは下がっている。今回の調査では花火の激増により、それら3種以外の割合が高くなったが、調査開始以来8割を下回ることにはなかった。しかし97年度からの調査結果では、発泡スチロールと牡蠣養殖パイプの合計割合については、2年連続で8割以下で



あり、数年前と比較すると、この2種については、多少減少しているといえるかもしれない。これらは今後の調査で明らかになってくるであろう。なお、前回98年度葉では、レジパレット47個であったが、今回は41個にとどまった。

図表 1. 包が浦海岸のゴミ個数割合の経年変化



図表 2 . 98年秋の調査内訳